「イースターにはなぜ森林がないのか」　鷲谷いづみ

①	序論	話題提示
②		
③		問い
④	本論	前置き
⑤		
⑥		事例①
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
⑭		
⑮		
⑯		
⑰		
⑱		
⑲		事例②
⑳		
㉑		事例のまとめ
㉒		
㉓		
㉔		
㉕	結論	まとめ
㉖		
㉗		主張

モアイ像で有名なチリのイースター島（紹介）

かつては森林におおわれていたが、現在、森林はない。

イースター島の森林は、なぜ、どのようにして失われたか。

四百年、ポリネシア人が初上陸した時は森林があった。

孤島のため、ほ乳類は生息していなかった。

ポリネシア人と一緒に逃げたラットが上陸していた。

この逃げ出したラットが、その後、大きな災いを起こすことになる。

森林が失われた大きな原因は人々にあった。

まず、農地にするため、森林が切り開かれた。

安定した食料生産を行うために。

次いで、丸木舟を作るため、太い木が切り出された。

丸木舟で魚をとったり、海鳥をとって食料にした。

さらに、宗教的・文化的目的でも森林が伐採された。

モアイ像は、重さ3～10トン、高さ3～10メートル。

モアイ像を運ぶために、木を利用した。

イースター島では森林の恩恵を受け巨石文化が栄えた。

しかし、太い木が切り尽くされ、繁栄は続かなかった。

イースター島ではヤシの木が再生することはなかった。

ラットがヤシの木の再生をさまたげたらしいのだ。

島で爆発的に繁殖したラットが実を食べてしまったため。

このようにして、伐採という人間による森林破壊と、ラットによる生態系への影響で森林は破壊された。

一七二二年、木は切り尽くされ、畑は痩せ細っていた。

丸木舟を作る材料がなく、魚や海鳥をとることもできなくなっていた。

食料を奪い合う村どうしの争いが絶えず、人口も減少していた。

イースター島の歴史から、わたしたちが教えられるのは、ひとたび自然の利用方法を誤り、健全な生態系を傷つけてしまえば、文化も人々の心も荒れ、悲惨で厳しい運命をたどると言うことだ。

モアイ像を作った人々は数世代後の子孫の悲惨な暮らしを想像できなかったのか。

今後の人類の存続は、子孫に深く思いを巡らす文化を早急に気づいていけるかどうかにかかっているのではないだろうか。